

地域とともに目指す資質・能力を育成する「未来創造探究学習」

新潟市立味方中学校 校長 本多 豊

1 実践上の課題

これまでの実践では、地域と連携・協働した人との交流や行事への参加等、地域（ひと・もの・こと）を題材にした体験的な学習を通して、地域についての理解と愛着、地域貢献への関心等は育まれてきた。

しかし、問題意識を触発し、目的意識や必要感、追究意欲を醸成する仕掛けや教師の手立てが弱く、生徒が主体的に問いを立て、他者と対話や協働しながら思考力、表現力、創造力等を発揮して問題の気付きや解決、課題の達成を目指す場や機会の工夫が十分でなかった。

目指す資質・能力を育成するために、学習過程や教師の具体的な手立てを見直し、探究的な学習の充実を図る必要がある。

2 研究テーマ

各教科等における見方・考え方を総合的に活用して身近な生活や実社会の現実の事象を多様な角度からとらえ、地域社会の多様な人々と協働しながら正解が一つではない問題を解決していく探究の過程を通して、社会で求められる資質・能力を育成する。

3 改善の具体

(1) 目指す資質・能力

2021年度から中学校全面実施となる新学習指導要領で求めている資質・能力に基づきながら、当校の目指す生徒像および実態に即して次のように設定した。

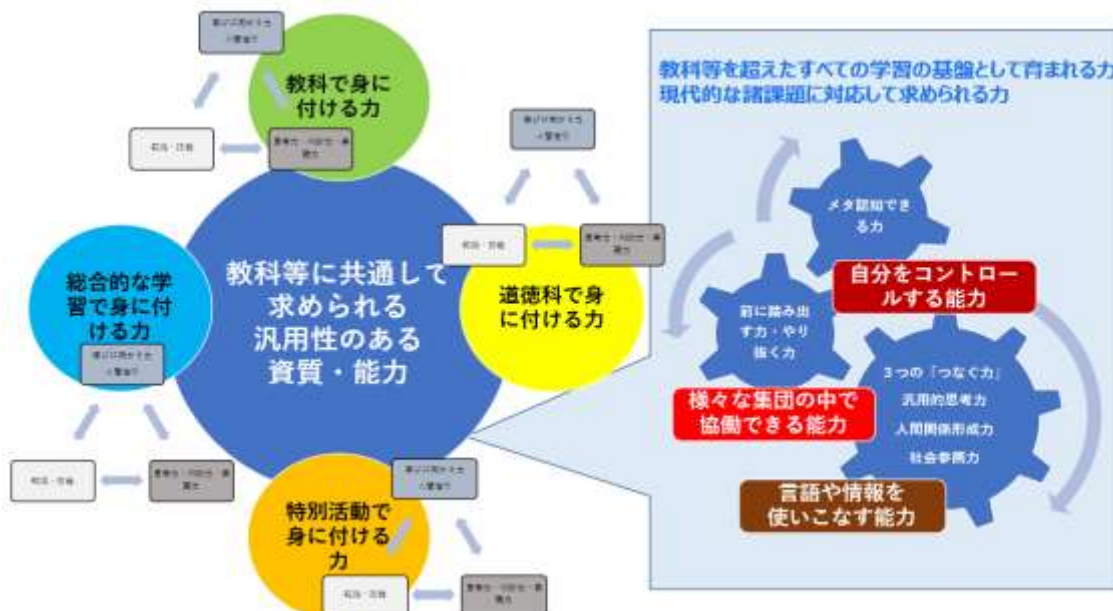
教科等に共通して求められる汎用性のある資質・能力【当校で重点化するもの】

○三つの「つなぐ力」

- ・情報と情報のつながりを付ける「汎用的思考力（批判的思考，協働的思考，創造的思考）」
- ・自分と他者のつながりを付ける「人間関係形成力」
- ・自分と社会のつながりを付ける「社会参画力」

○「前に踏み出し、やり抜く力」

○「メタ認知できる力」



(2) ねらい

- ・「人とどうかかわり、社会とどうつながっていくのか」「何を大事にして、どんなふう生きていきたいか」という二つの軸を育てる。
- ・社会に通用する自律した大人になるために必要な力を身に付けさせる。
※社会に通用する自律した大人になるために必要な力とは、自分の力で P（目標設定と計画）→D（実行）→C（振り返りと評価）→A（改善実行）サイクルを回していけることである。

(3) どんな学習にするか

足元の地域社会の課題を考えることが広い社会や世界の課題を考えることにつながる。また、地域社会の未来を考えることは自分自身の未来（在り方や生き方）を考えることにつながると考え、次のことを具体化した学習を構想した。

- ・地域（南区，味方地区）を掘り下げ、そこにある問題や課題をしっかりと理解し、自分事として受け止め、その解決や改善，実現に向けてどう行動するかを考えさせる。その際、地域が抱える課題には社会の大きな変化や地球規模の問題が背景にあることを踏まえた視点から探究する場や機会を工夫する。
- ・地域づくりの活動を実際に取材したり体験したりすることを通して、かかわっている大人たちの思いと願いに触れるとともに、自らも当事者意識をもって地域の目指す将来像や問題を探究し、様々な人と協働して足元でできることを考え、行動を起こすプロジェクト型の学習にする。
- ・教科横断的な学びの方法として、安心できる場づくりや人と人をつなぐマネジメント機能としてファシリテーションを取り入れる。3年間を通して計画的にスキルを高める。
- ・各学年の単元において、目指す資質・能力の具体的な様相をルーブリックとして設定し、評価する。また、客観的な指標による評価テスト等を使って、1年間の伸びと3年間を通した伸びが把握できるようにする。

(4) 実践内容 『未来創造探究学習』（授業時間 25 時間）

新型コロナウイルス感染症拡大のため、4，5月は臨時休校及び分散登校となり、6月の学校再開後も8月までは学校外に出掛けたり学校外からゲストティーチャーに来てもらって行う学習活動はすべて中止した。それに伴い、総合的な学習の時間は9



未来創造
Think Globally, Act Locally
探究学習

月下旬からスタートせざるを得なかった。そのため、予定していたプログラムを大きく変更し、本年度は全校合同で行うこととした。

また、本来は地域の目指す将来像や問題を探究し、自ら様々な人と協働して足元でできることを考え行動を起こすプロジェクト型の学習を想定していたが、コロナ禍のため実施できなかった。

授業の流れ

【ステップ1】9月23日～11月2日※報道取材あり（授業としては9時間）

○笹川邸ガーデニング・プロジェクト

地域づくりの活動を実際に体験することを通して、かかわっている大人たちの思いと願いに触れるとともに自らも当事者意識をもつ。

- ・味方地区コミュニティ協議会長さんから生徒への提案

（地域の財産として大切にしている重要文化財笹川邸の価値をもっと高め地域発信できるように、季節の花で彩るフラワーガーデンを地域の大人と中学生と一緒に創りたい。）

教科等で身に付けてきた資質・能力を発揮しながら、大人と協働で実現させる。

- ・笹川邸ガーデニング・プロジェクトチーム（各学年から6名募集）を組織し、ガーデンデザイン、全校生徒による花植えの計画・実行、発信（PR用のぼり旗・チラシ・ポスターの作成、オープニングイベントの企画・実行を地域の大人と協働で行う。）



【ステップ2】 10月19日（2時間）

○ガイダンス（1時間）

社会の変化と探究的な学習の必要性等についてのレクチャー(みらいず woks)

- ・社会ではどんな変化が起きているのか。これからの社会で求められる力とはどんなものか。
- ・探究的な学習とはどんな学習か。なぜ重視されるのか。

「問いを立てる」ワークショップを通して、汎用的思考力をどのように発揮させていくかを実際に体験しながら学ぶ。

→情報と情報をつないだり必要な情報を取り出していろいろな観点から吟味したりして、考えを筋道立てて説明する。（批判的思考力）

他者との共通点や違いを理解し、目的に応じた効果的なコミュニケーションをとって、気付きを得たり合意を形成したりする。（協働的思考力）

情報と情報をつないだり別の場面に応用したりして、問題や課題を見付け、解決策を考えたり新しいアイデアを生み出して新たなものを創り出したりする。（創造的思考力）

○ファシリテーション・ワークショップ（1時間）

ファシリテーションの考え方とよさ、基本的なスキルを実際に体験しながら学ぶ。(みらいず woks)



【ステップ3】 10月29日（2時間）

○ゲストティーチャーから探究のミッションの提示

地域（南区，味方地区）を掘り下げ，そこにある問題や課題をしっかりと理解し，自分事として受け止め，その解決や改善，実現に向けてどう行動するかを考える。

- ・白根青年会議所理事長さん，白根高校地域コーディネーターさんから，それぞれの立場から地域づくりにどのように関わっているか直接話を聞く。
- ・地域ではどんな将来像が描かれているか，どんな問題や課題を抱えている

かについて知る。

その上で、中学生の視点からも地域の将来像を考え、どんな地域になってほしいか、どんなことができるかを提案してもらいたいというミッションをもらう。

- ゲストティーチャーからのミッションを受け、南区が目指している「笑顔あふれる地域社会」を実現するためにどんな視点から考えていったらよいかファシリテーションで話し合う。



思う。
描く。



大人たちからのメッセージ。
未来の主演は、私たち。

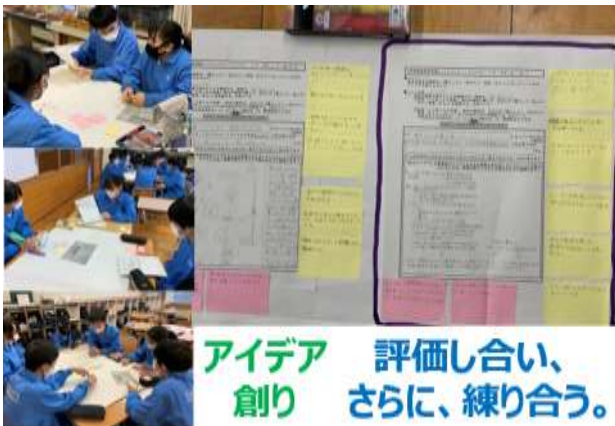
10年後、こんな地域に。

【ステップ4】11月9日（2時間）

- 目指す地域の将来像の設定とアイデアの発想
 - ・3年後と10年後の地域と自分の姿を思い描き、グループおよび全員で交流する。（みらいず woks）
 - ・それを基にしながら、ずっとここで暮らしたいあるいはここに住んでみたいと思う地域とはどんな地域かファシリテーションで話し合う。
 - ・設定した視点から目指す地域の姿を実現するためのアイデアを発想する方法をワークショップを通して学ぶ。

【ステップ5】11月19日～12月3日（6時間）

- 目指す地域の将来像を実現するアイデアの発想と吟味
 - ・グループで設定した、ずっとここで暮らしたいあるいはここに住んでみたいと思う地域像が実現するには、今あるどんなよさを生かし、どんなところをどう変えていくのかという自分の考えをまとめる。
 - ・グループの中で紹介し合い、それぞれの意見のメリットとデメリットを話し合う。それを基にグループ案をまとめる。模造紙を使ってまとめる。
 - ・各地の地域活性化、地域創生の取組の資料（主に新聞記事）も参考にしながらグループの提案をさらにブラッシュアップする。
 - ・次のステップとなるグループ案のプレゼンに向けて準備する。



【ステップ6】12月10日（2時間）

- 目指す地域の将来像を実現するアイデアの吟味＜グループ案のプレゼン＞
 - ・三つのブロック（5グループずつ）に分かれ、それぞれのグループ案をプレゼンし、お互いに質疑応答および評価をする。

- ・白根青年会議所から3名のゲストティーチャーに来てもらい、それぞれのグループ案およびプレゼンについて評価してもらう。
- ・各ブロックで審査し、ブロックの代表として全体に発表する案を選ぶ。ブロック代表に選ばれたグループは、全体でのプレゼンに向け、ゲストティーチャーの評価を参考に練り上げる。

グループ案をプレゼンテーション



アイデアを相互評価



【ステップ7】12月17日（2時間）

- 目指す地域の将来像を実現するアイデアの発表
＜ブロック代表グループのプレゼン＞

代表のプレゼンを通して、これまで探究してきたことを全員で振り返るとともに、味方地区コミュニティ協議会長、白根青年会議所理事長・副理事長、南区長（代理教育支援センター所長）、みらいず works に来てもらい、実際に地域づくりにかかわっている大人に評価してもらうことによって自分たちの学びを価値付ける。

- 一連の探究的な学習を通して、自分にとって新たに気付かされたことや考えが深まったことをグループごとにファシリテーションで交流・共有する。
- 一連の学習活動の前と比べて自分がどう成長したか自己評価する。



ゲストティーチャーとディスカッション

専門の人たちによる学びの評価



どんな価値があるか。さらに深めるには
どんな視点をもつとよいか。



これまでの探究の過程を
振り返り、進化を見える化

4 成果と課題

(1) 成果

- ① 目指す資質・能力を育成するための学習過程や教師の具体的な手立てを見直し、探究的な学習の流れを一定程度創ることができた。また、生徒、教師が実際に体験し理解することができた。
問題意識を触発し、目的意識や必要感、追究意欲を醸成する仕掛けや手立ての重要性について教師の理解が深まり、日々の授業や特別活動の場面でも意識されるようになった。
- ② 一連の学習活動を振り返って生徒の意識に向上的な変容が見られた。
単元のまとめに行った、次の項目について学習活動の前と比べて自分がどう成長したかという自己評価の結果、いずれの項目についても全校生徒の9割が肯定的評価（とてもあてはまる・あてはまる）であった。
 - ・地域とつながっていることをより意識するようになった。
 - ・将来の地域のことを考えるのが楽しく感じるようになった。
 - ・ファシリテーションを使うことが身近に感じるようになった。
 - ・ファシリテーションやプレゼンをもっとやってみたいと思えた。
- ③ 一部試行を通して改善点をとらえることができ、次年度のカリキュラムの検討、教師の働き掛けの留意点を具体的にする上で生かすことができた。
- ④ 単元全体の授業の流れと各ステップの学習活動の流れ、生徒用ワークシートや支援シート等を授業支援者として入ってもらったみらいず worksさんと相談しながら工夫したことにより、全校合同で異学年グループによる学習活動を機能させることができた。

(2) 課題

- ① 本来は地域の目指す将来像や問題を探究し、自ら様々な人と協働して足元でできることを考え行動を起こすプロジェクト型の学習を想定していたが、コロナ禍の中で実施できなかった。したがって、探究の過程としては不十分さが残った。
- ② 一連の学習活動の中軸に位置付けたファシリテーションについて生徒、教師とも不慣れであったため、効果的に使えたとは言えず、目指す資質・能力の発揮を促す手段として不十分さが残った。
- ③ 目指す地域の将来像の設定とアイデアの発想を促す場面では、視点が拡散してしまい吟味・検討が焦点化しなかったため、話し合いの質が高まらず深い思考につながらなかった。アイデアの吟味を促す場面では、取材や体験、調べた資料等を基に検討させる場や手立てが十分でなかったため、提案の内容が自分たちなりに考えたレベルでとどまり、多面的・多角的に検討され練り上げられたものにならなかった。
- ④ 目指す資質・能力の具体的な様相をルーブリックとして設定して評価することは学習過程の一部においてしかできなかった。また、客観的な指標による評価テスト等を使った測定は行うことができなかった。

次年度は3年間を通した全体設計を次のようにし、上記課題を踏まえて学習過程や教師の具体的な手立ての改善を図る。各学年の単元計画を現在立案中である。

◇ 1年生

- ① 「文化、風土、伝統の豊かさ」を切り口に、他の地域と比較しながら南区や味方地区の「ひと、もの、こと」の魅力について、実際に体験することを通して実感的に理解を深める。（例 白根大風合戦等）
- ② 地域づくりの活動を実際に取材したり体験したりすることを通して、かかわっている大人たちの思いと願い、現状と課題を知る。
- ③ 「この地域に暮らしてみたい、この地域とかかわってみたい」と思う人を増やすことを目的に、南区や味方地区の魅力を PR パンフレットや動画にして発信する。

◇ 2年生

- ① これからの地域社会を考える視点となる、「持続可能」について知る。その上で持続可能な地域づくりを視点にしたや地域や企業等の実際の取組を訪問またはオンラインで取材し、南区や味方地区ではどんなことが必要か、可能か考える。
- ② ①を踏まえて自分たちで視点を設定し、10年後の南区や味方地区が目指すべき姿およびそのための具体的な方策案をまとめ提案する。
- ③ 6月のリニューアルに向け、笹川邸ガーデンの夏ガーデンのデザインづくりと広報、オープニングイベントの企画を担当する。

◇ 3年生

- ① 地域の魅力を今暮らしている人たちが改めて認識したり、地域外の人たちに発信したりするためにやってみたい行動（アクション）を考え、大人と協働して実現させる。（例 笹川邸の活用、地域行事の活用、空き地・空き家の利活用等）その中で、段取りを組み立てて実行していく方法や効果的なスキル等を体験的に身に付ける。
- ② 10月のリニューアルに向け、笹川邸ガーデンの秋ガーデンのデザインづくりと広報、オープニングイベントの企画を担当する。

◇ ファシリテーションの考え方とよさ、基本的なスキルを実際に体験しながら学ぶ授業を全学年に位置付ける。

◇ 目指す資質・能力の具体的な様相をループリックとして設定して評価する。併せて、目指す資質・能力の状況について測定する客観的な指標テストを活用する。

◇ 『未来創造探究学習』のプログラムと支援体制を創るために組織したく地域と学校の協働プロジェクトチームの会議を月1回開いて議論してきたことを基に、全体設計、各授業プログラムの計画、目的に応じた人材や場とのマッチング等の支援を行う推進体制を拡充する。

